



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
2025年2月28日

全教北九州 検索 私たちの給料と組合の役割 特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

組合の力を大きくして、さらに賃金と待遇を改善させよう

誰もが経験や働きに見合った待遇となることが大切

2024年12月25日、多くの教職員に「差額支給」が行われまし
た。ボーナスとは別に支給されたこの「差額」、思わぬ収入
に驚いた方もいたかと思いますが、いいことばかりではないよ
うです。

若年層は40万円近い「差額支給」が実現！

12月の北九州市議会では、9月に出された北九州市人事委員会勧告に基づく給与改定が議決されました。その結果、4月に遡って給与が引上げとなるため、既に支払い済みの4月から12月までの給与とボーナスの差額が支給されました。組合が粘り強く交渉してきた結果、今年の引上げは大幅なものになりました。若年層は40万円近い差額支給が実現しました。

30年ほど前までは、「差額支給」は毎年のようにありました。3月にも期末手当(0・5月分)が支給されていまし
た。その後財政難を理由に20年近く昇給が抑えられていま
した。

組合は毎年、「生活実態に見合った給与を」と粘り強く交渉しています。来年度以降も、物価高に負けない賃上げが実現するよう、皆さんに組合加入を訴えます。組合の力を大きくして、交渉でさらに要求を実現させましょう。

採用試験前倒しと初任給アップで教員の魅力は増すか

文部科学省は今年度から採用試験日程の前倒し(試験日を今年6月実施、来年は5月実施)を指示しました。しかし、試験日程を前倒しした自治体の約85%で受験者数が前年より減少したことが明らかになりました。この結果は、文科省が求めた教員のなり手確保策としての試験前倒しが、実際には効果を発揮していないことを示しています。

今年度の当局提案で全世代での給与増を勝ち取りました。特に初任給は2万円を超える大幅なアップとなりました。学校現場が過酷であるというイメージから教員採用試験の受験者数が減少するなか、給与を引き上げて教員の魅力をアップさせることがねらいです。

しかし、給与の引き上げが長時間労働や過密な業務負担といった職場環境の改善に直結するわけではありません。(2面へつづく)

① 国:人事院勧告(8月)
市:人事委員会勧告(9月)
民間企業を調査して、今年度の公務員の賃金等を勧告します。

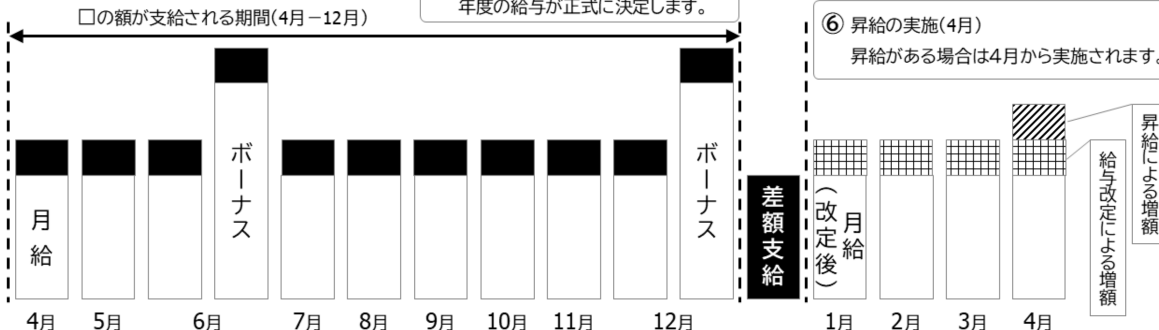
② 市教委へ要求書提出(9月)
人事委員会勧告をうけ、市教委へ要求書を提出します。

③ 組合交渉(9月-11月)
市教委からの提案を受け、組合は給与・待遇の改善を求めて交渉します。交渉後、市議会で議決されると、今年度の給与が正式に決定します。

④ 差額支給(今年度は12月25日)
4月から□の額が支給されますが、本来支払われるべき給与が最終的に12月に決まるため、不足分■が年末にまとめて支払われます。

⑤ 改定後の給与(1月)
1月からは改定後の給与が支給されます。

⑥ 昇給の実施(4月)
昇給がある場合は4月から実施されます。



全教北九州
うちの共済
火災はもちろん
地震も自然災害も補償
Webでお見積



北九州の戦争遺跡

小倉陸軍造兵廠
技能者養成所②
(小倉北区)

技能者養成所の教育は、工業学校と同程度の内容とされ、教官は主に造兵廠の職員や技術士官が担当しました。修身など一般科目では教員の資格を持つ民間人も担当しました。また軍事教練は予備役士官または准士官である造兵廠職員が担当しました。当初は部活動もあり、42年の第3回大日本吹奏楽大会(現在の全日本吹奏楽コンクール)では学生楽隊が学生の部6位に入賞しています。しかし戦局の悪化とともに作業が中心となり、教官も戦場へ戻って行きました。戦後、軍の学校卒業者と終戦時に在籍していた者は無試験で文部省所管学校への編入を認める措置がとられましたが、養成所は対象外でした。53年、学校教育法改正により旧制高等専門学校、工業学校卒業同程度以上と扱う救済措置が実施されました。しかし卒業証書提示や関係者の証明が必要とされ、元生徒は証拠集めに奔走することになりました。

(1面からの続き)

また給与が上がることは嬉しいことですが、年代が上がるにつれて増額の幅が小さくなっていることは問題です。4年制大学の新卒者をモデルにした給与表に基づく差額を試算してみましたが30代から急速に減少し、40代以降はほぼ一定となります。さらに現在の制度で給与は、60歳を超えた時点で7割減額され、定年延長後の再任用ではさらに5割台に減額されます。このような制度はただちにやめるべきです。

どの世代でも、経験や働きに見合った待遇となることが大切です。私たちは子どもたちのためにも、すべての教職員が生きて働き続ける魅力あふれる学校現場をとることを求めています。

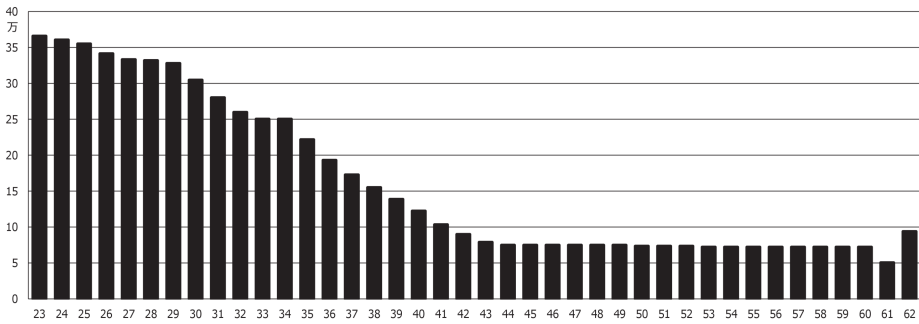
大綱提示・当局提案に対する交渉の成果

今年度も教育委員会は大綱提示(組合の要求に対する回答)を行いました。これを受けて全教北九州は、24年9月から11月にかけて交渉を行いました。

私たちは「待遇の改善となる提案は受け入れられない」として、「配偶者対象の扶養手当の廃止」の撤回と会計年度任用職員の処遇改善、常勤講師の2級適用などを求めました。

残念ながら、国の人事院方針に他の都道府県・政令市も概ね従っていることや、財源が確保できないことを理由に当局提案

4年制大学の新卒者をモデルにした給与表に基づく差額の試算



を覆すことはできませんでした。しかし、配偶者対象の扶養手当の廃止については、1年としていた経過措置を2年に延ばすこととし、減額の金額も少なくすることはできました。

その後、会計年度任用職員の処遇改善については、国にならうて病気休暇の有給化が実現しました。

教育は人生そのもの

2/1〜2「全教青年教職員学習交流集会TANE!」

2月1日〜2日に全教青年教職員学習交流集会「TANE!」が大阪で開催されました。全国から現地に約200名が集い、全教北九州から2名が参加しました。参加者の感想を紹介します。

全国の色々な地域の方々とい頃の教室でのリアルな出来事や、子どもとの関わり方を話せて、知見を広げることができました。早速、実践してみたい小ネタを知れたので、自分の学級の実態にアレンジして実践していきたいと思っています。(実践・教材交

流―「あつまれ 小ネタの森」授業のタネを持ちかえって、活かしていこうに参加した感想)

子どもも先生も学校に行くのがしんどい現状がなぜ作り出されているのかが不可解でした。しかし、鈴木先生が、社会の仕

組みや変化等の背景から丁寧に話してくださったお陰で、理解することができました。また、先生のお話の中であった「生きていることって素晴らしいことなんだよ」ということを教師が伝えることが大切とありました。が、私自身できていないなど反省させられました。教育は人生の準備期間ではなく、人生そのもの。遊びを大切にして、子どもたちと生きる喜びを味わえる教師になりたいと思いました。(全体講演―教育研究者・高知県土佐町議会議員の鈴木大裕さん「子どもたちのねがいと喜びを学校に―教育の本質を見つめ直そう―」に参加した感想)



第二次全国定時アクション

1月15日18時から宣伝行動を行いました。参加した組合員は、「みんなが家族揃って夕食を囲まれる社会にしたいね。」と語りました。

長時間過密労働解消につながる給特法の改正を

2/15-16 全日本教職員組合(全教) 第42回定期大会



2月15日(土)16日(日)東京都内で、「全日本教職員組合第42回定期大会」が開催されました。全教北九州からは3名が参加しました。

大会では、「長時間過密労働解消につながる給特法の改正と教職員の大増員を!」という方針が、豊かに補強されました。全教北九州からは、事務職員部の組合員拡大、1127定時アクションの反応、沖縄平和の旅、また旅を通じて全教共済の理解が進み加入促進につながったことなどについて発言しました。